

集落見聞録

(第50回)

じちま

実間

急傾斜に人家が点在する集落

地区に詳しい梶原茂盛さん(82歳)にお話を伺いました。

昔は集落のどの家もコウゾとミツマタを栽培して生計を立てていました。また畑では自分の家で食べるだけの野菜や芋を作り、子どもたちも当たり前のように家の仕事を手伝っていました。

コウゾとミツマタの皮をはぐ作業は、冬の朝四時ごろから始めていたそうで、当



梶原茂盛さん

十代の独身男女のほとんどが川渡青年団(川渡地区の八集落で形成)に入団しました。青年団は夏の盆踊りや秋の演芸会などを主体となつて開催したり、

村内青年団の体育大会に選抜選手が出場するなど、色々な面でよく協力したそうでした。集落に沿って長者から川渡へと通ずる旧往還が延びていて、昭和九年に長者池川線が開通するまでは、長者から森への唯一の交通路でした。その旧往還の上実間と下実間の境に「実間大師堂」があり、堂のすぐ南に周り二・五畝ほどの黒松の太木が二本根付いていました。どこから見ても「あそこにお堂がある」と分かるほど、象徴的な

木だったそうですが、残念ながら現在は残っていません。(二本は松くい虫被害によつて枯れ、一本は下の国道に危ないからと伐採されたそうです) 集落全体の氏神はなく、河内神社和合神社には梶原氏の先祖が、若宮八幡宮には片岡氏、西森氏、川上氏の先祖が祭られています。どちらも毎年二回同じ日(七月十七日・十一月十七)に神祭を行います。

梶原さんは「急傾斜やし、実間ばあ立地条件が悪い所はそうない。年寄りばかりになつてしもうたき、協力してやつていかんと」と話してくれました。



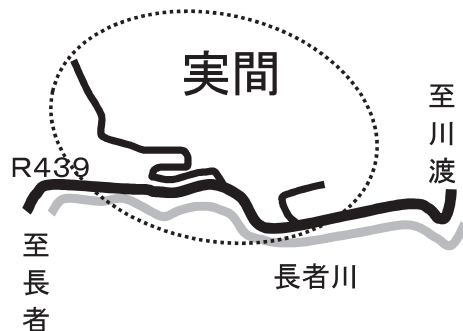
若宮八幡宮 上実間集落上方の林の中、急な石段を登った先にある。西森氏と片岡氏の先祖を祭る若宮八幡宮に、川上氏の元祖を祭っていた大倉神社を合祭したもの。



実間集落

実間は上実間、中実間、下実間の3集落からなり、1月末現在11世帯18人、仁淀総合支所から車で約10分のところにある集落です。

長者川に沿った山の中腹に人家があり、東南向きで比較的温暖な地区です。



河内神社和合神社 もともと現在の場所にあった和合神社に、梶原氏の先祖を祭る河内神社を合祭した。

シンポジウムに120人



仁淀川について発表する大黒真寿実君（左）と井上光也さん

仁淀川の大切さ再認識

2月6日 仁淀川の大切さや課題への認識を深めようと「にょど自然素材等活用研究会（井上光夫会長）」主催の「仁淀川シンポジウム」がいの町で開催され、遠くは愛媛県久万高原町から約百二十人が参加しました。

当日は、昨年同研究会が企画・実施した親子カヌー体験、仁淀高校と仁淀中学校の連携河川環境調査継承活動、仁淀川河口のごみ調査などの活動報告の後、川に関する講演、パネルディスカッションなどが行われました。

また川への思いを伝える仁淀川メッセージでは、仁淀高校三年の大黒真寿実君と仁淀川町用居の井上光也さん（高知大生）も、仁淀川水生生物調査の楽しさや、学校で行っている水質調査への思いなどを発表しました。

消防団協力事業所第2号に(株)不二土木

消防団協力事業所に株式会社不二土木（寺村）が認定され、大石弘秋町長から尾崎二徳社長に表示証が手渡されました。

この表示証は、消防団員の従業員を常時相当数雇用し、消防団活動に積極的に協力していただいている事業所に交付するもので、(株)不二土木は日鉄鉱業(株)鳥形山鉱業所に続いて、本町の交付第2号となります。



大石町長（左）と尾崎社長

自衛官等募集要項

自衛官幹部候補生 一般・技術	
募 集 人 員	(一般男子) 陸 約185名 (一般女子) 陸 約15名 海 約 80名 海 約10名 空 約 60名 空 約 5名
資 格	20歳以上26歳未満の者（22歳未満の者は大卒(見込含む)） [大学院修士学位取得者(海上技術幹部候補生志願者は、理工学修士学位取得者に限る) 及び自衛官は28歳未満]
受 付 期 間	2月1日(火)～5月6日(金)
試 験 期 日	1次 5月14日(土)・15日(日) (15日は飛行要員のみ) 2次 6月14日(火)～16日(木)
合 格 発 表	1次 6月3日(金) 海・空飛行要員のみ2次 (海)7月4日(月)・(空)7月6日(水) 最終 (陸・海) 8月5日(金)・(空) 9月6日(火)
入 (校) 隊	平成24年3月下旬～4月上旬
待遇・その他	入隊後約1年で3等陸・海・空尉 [大学院修士学位取得者は2等陸・海・空尉]
問 い 合 わ せ	自衛隊高知募集案内所 ☎088-823-2006

※1：平成24年3月高等学校卒業予定者または中等教育学校卒業予定者のための採用試験は、原則として平成23年9月16日以降に行います。